

## 研究活動

平和と開発のための実践的知識の共創

JICA緒方貞子平和開発研究所(略称：JICA緒方研究所)は、2022年3月にJICA緒方研究所レポート『今日の人間の安全保障』、同年10月には、英訳版である“Human Security Today”を創刊しました。人間の安全保障の概念が生まれて約30年、紛争や自然災害など既存の課題に加え、エネルギー・食料危機、債務問題による社会経済への影響など、世界は「複合危機」にさら

されています。これらの脅威に対応する視座として、人間の安全保障の実践が重要となっています。







JICA緒方研究所は緒方貞子元JICA理事長の理念を継承し、開発途上国が直面する課題について政策志向の研究を行い、国際社会における日本の知的プレゼンスの強化を目指しています。

### 研究活動の基本方針

1. 国際的な学術水準の研究を行い、積極的に発信する。
2. 現場で得られた知見を分析・総合し、事業にフィードバックする。
3. 人間の安全保障の実現に貢献する。

### 重点研究領域

JICA緒方研究所では、6つの重点研究領域を定めています。

1		<b>政治・ガバナンス</b>	世界の各地で戦争やクーデター、権威主義的な政権が人々の平穏な生活を脅かし、人生の豊かな可能性を追求する機会や、ときには命さえも奪う事例が生じています。住む国にかかわらず、すべての人が人間の安全保障を享受できる国内・国際政治の条件や社会の仕組みとは何かを考えます。
2		<b>経済成長と貧困削減</b>	世界にはいまだ多くの貧困層が存在しています。開発途上国における政策や取り組みが、いかに経済成長と貧困削減に貢献するかを明らかにするために、インフラ事業の経済社会効果や金融に関する研究などを、介入・非介入の比較分析手法も取り入れて行います。
3		<b>人間開発</b>	すべての人に対する良質な教育、保健サービスへのアクセスの保障とエンパワーメントの実現に向けて、エビデンスに基づいた政策と協働が必要です。開発途上国における留学のインパクト研究や、新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響に関する研究などを通じ、効果的な政策や実践のあり方を考えます。
4		<b>平和構築と人道支援</b>	人間の安全保障と平和構築を研究の2本の柱としています。持続的な平和の促進要因や阻害要因を分析し、また、人間の安全保障における保護とエンパワーメントの関係を探求することで、人道危機への対応や持続的な開発と平和に従事する多様な主体による、有効な支援のあり方を探ります。
5		<b>地球環境</b>	SDGsへの取り組みや気候変動への対応に向けた研究を実施します。気候変動適応策の定量的評価手法、社会の持続可能性を評価する指標を用いた持続可能な開発の方策などに関する研究を行います。
6		<b>開発協力戦略</b>	過去から学ぶための日本の開発協力に関する歴史研究、農業や産業開発などの協力アプローチに関する研究、外国人との共生社会の実現などの今日的な課題に関する研究などを通じて、世界的に経済・社会構造が変化するなかでの国際協力のあり方や効果的なアプローチを検討します。

## 2022年度の成果

これらの方針や領域に基づき、2022年度は31件の研究プロジェクトを実施し、その成果の発信に努めました。

### 研究成果の発信

リサーチ・ペーパー3本、ディスカッション・ペーパー9本、ポリシー・ノート1本、ナレッジ・レポート3本、開発協力文献レビュー1本を発刊しました。

また、先述の『今日の人間の安全保障』英語版を含む報告書6本、和文書籍4冊、英文書籍3冊が刊行されました。

和文学術書籍としては、シリーズ「日本の開発協力史を問いなおす」から、日本の政策史などを題材に3タイトル発刊しています。また、研究プロジェクト「日本の国際教育協力：歴史と現状」、「サブサハラ・アフリカにおける米生産拡大の実証分析フェーズ2」などの研究成果として、英文学術書籍3冊を刊行しています。

このほか、研究成果は学術誌、学会発表などを通して発表されており、学識者に広く共有されています。



2022年度の刊行物から



ノーベル経済学賞受賞者のジョセフ・スティグリッツ氏による講演「複合危機下のグローバル経済：新興国・途上国の課題とレジリエンス（強靱性）強化への道筋」を2022年10月7日に開催。新興国と開発途上国に焦点を当てながら、そうした国々がどのように世界経済の混乱から立ち直り、より強靱な制度や社会をつくることができるかを議論した

### 現場で得られた知見の発信

2021年度に引き続き、各種セミナーを開催。『今日の人間の安全保障』をはじめとする報告書や書籍の刊行イベントや第8回アフリカ開発会議（TICAD 8）関連セミナーのほか、移住史と多文化理解、複合危機下における安全保障や債務問題、パンデミック対応など、今日的な課題をテーマとして取り上げ、セミナーやイベントなどを25件開催したほか、学会での企画セッションや他機関との共同イベントを14件開催しました。

また、一般書籍として、日本の途上国開発への貢献を長期的な観点から分析する「プロジェクト・ヒストリー」書籍シリーズでは、ウガンダでの長期化難民状況に対する支援やASEAN諸国での工学教育協力（SEED-Net）など、多岐にわたる分野・地域を題材として、和文書籍5冊を刊行したほか、パラグアイの日本人移住者の活躍を描いたスペイン語版書籍も刊行しました。

さらに、2022年10月には、JICA緒方研究所上席研究員による寄稿「複合リスク下の途上国債務」が日本経済新聞に掲載されました。